

## 起業家教育(アントレプレナーシップ)について

起業家教育は、平成19年度からの「個性かがやく高校づくり」の指定校から特に力を入れて教育実践を積み重ねており、起業家マインドの育成ということが大きな柱で行ってきました。

特に、平成24年度から3年商業科「総合実践」を中心に、長年積み重ねてきた起業家教育をさらに発展させた内容にブラッシュアップを図り3年間実施しました。

なお、平成27年度からは3年生に週2時間通年（今までは10月以降に実施され週3時間）で学校設定科目「地域ビジネスプランニング」により展開されます。

### 1 実践授業について（平成26年度）

- (1) 科目名 : 3学年必修科目「総合実践」(3単位)
- (2) 対象 : 3年1組 男子20名 女子15名 計35名  
2組 男子18名 女子14名 計32名  
3組 男子20名 女子16名 計36名
- (3) 実践期間 : 2学期(10月～1月)
- (4) 指導形態 : 担当教員4名によるティームティーチング

### 2 起業家教育について

起業家教育は、模擬会社の運営や商品開発、販売体験などの経済活動を題材とした問題解決学習を通して、生徒が自ら課題を見つけ解決していく過程の中で、起業家精神や起業家的資質・能力を育成する教育です。

起業家精神とは、未来を切り開くチャレンジ精神であり、創造性や探究心、そして自信をとまなうものである。起業家的資質・能力とは、課題を解決するため、情報を収集し分析する力、協同して取り組むチームワーク力、さらに、リーダーシップ、プレゼンテーション力、コミュニケーション力等を指している。

これらの力は、企業を立ち上げる起業家だけに必要な力ではなく、社会の中でよりよく生きていくために、だれにでも必要な力であり、特にこれからの社会を担っていく子供たちが身に付けるべき基本的な力であると言える。

起業家精神	起業家的資質・能力
<ul style="list-style-type: none"><li>・チャレンジ精神</li><li>・創造性</li><li>・自信</li><li>・積極性</li><li>・探究心</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・コミュニケーション力</li><li>・チームワーク力</li><li>・地域理解、郷土愛</li><li>・情報収集力、分析力</li><li>・実行力、判断力</li><li>・リーダーシップ</li><li>・プレゼンテーション力</li><li>・問題解決力</li></ul>

### 3 使用教材について

- (1) プログラム(教材)名  
「鹿島台商業高等学校アントレプレナーシッププログラム」  
(KASHIMADAI commercial high school Entrepreneurship Program 通称:KEP)
- (2) 本プログラム活用の経緯

一昨年度から、本校で作成し活用している教材を、グループ活動の活性化と思考力や創造力の向上をねらいとした内容に改編した。

昨年度の授業実践において、グループ活動時の生徒は、おおむね活発にコミュニケーションをとっている様子であり、ロジックツリーなどの思考技術を体験することによって、物事を深く考えることもできていた。

平成25年度には、生徒に提示するミッション(課題・テーマ)を新たなものに設定し、全体の指導計画についても、平成24年度の授業実践での授業担当者と生徒の反応を踏まえて、本校の生徒の実態に合わせた内容に改善していた。

#### 4 指導計画 (15 単元 35 時間構想)

STEP (単元)	タイトル(単元名)	時 数	主な学習内容
1	起業家教育をスタートしよう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起業家教育のねらいと学習内容を理解する。</li> <li>・ミッションを受け取る。</li> </ul>
2	チームをつくろう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームを編成し、役割分担を決める。</li> </ul>
3	チームワークを高めよう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイクを行い、チームのコミュニケーションを深める。</li> </ul>
4	ミッションの詳細テーマを決めよう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミッションに設定された6つの詳細テーマのなかから、チームで取り組むものを1つ決める。</li> </ul>
5	ミッションの背景を深く探ろう	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロジックツリーの考え方を理解する。</li> <li>・地域が抱えている問題の原因を、ロジックツリーを活用して推測する。</li> </ul>
6	大崎市の資源を調べよう	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用する大崎市の資源について調べる。</li> <li>・既存の商品を調べる。</li> <li>・活用する資源を分析する。</li> </ul>
7	アイデアのコンセプトを考えよう	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミッションクリアの状態（理想の地域）を実現させる方法を、ロジックツリーを活用して、深く考える。</li> <li>・アイデアのコンセプトを固める。</li> </ul>
8	企画会議を開こう	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインストーミングとワールドカフェを活用して、アイデアを考案する。</li> <li>・KJ法を活用して、複数のアイデアをグルーピングする。</li> <li>・アイデアを投票形式で絞り込む。</li> <li>・考案したアイデアを、企画書にまとめる。</li> </ul>
9	中間報告の準備をしよう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画書をもとにした発表の準備を行う。</li> </ul>
10	中間報告をしよう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チューター（大学生）に対して、アイデアを発表する。</li> <li>・チューターとのディスカッションを行う。</li> </ul>
11	アイデアを改善しよう	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チューターからのアドバイスを整理する。</li> <li>・ブレインストーミングを活用して、改善したアイデアを考案する。</li> <li>・KJ法を活用して、複数のアイデアをグルーピングする。</li> <li>・アイデアを投票形式で絞り込む。</li> <li>・6W3Hシートを作成して、アイデアを具体化する。</li> </ul>
12	アイデアを完成させよう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアを完成させ、企画書を作成する。</li> </ul>
13	プレゼンテーションの資料を作成しよう	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表原稿とスライド資料を作成する。</li> <li>・リハーサルを行い、改善する。</li> </ul>
14	プレゼンテーションをしよう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の成果をプレゼンテーションする。</li> </ul>
15	すべての活動を振り返ろう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの活動を自己評価する。</li> </ul>

## 5 今年度のミッション（課題）・テーマについて

### (1) 平成 26 年度ミッション

「大崎市の豊かな資源を活用し、大崎市民の笑顔が咲く『伊達な商品』を提案せよ！」

### (2) ミッションの詳細テーマ（全6チームがそれぞれの詳細テーマに取り組む）

- ① 鳴子地区：大崎市民が泊まりたいと思う「温泉宿」宿泊プランを考案する。
- ② 岩出山地区：若者をターゲットにした「しの竹細工」の新商品を考案する。
- ③ 三本木地区：「ひまわり」をモチーフ（題材）にした新商品を考案する。
- ④ 田尻地区：「ジャージー牛乳」を活用した新商品を考案する。
- ⑤ 松山地区：地酒づくりに使う麴を活用した「甘酒」の新商品を考案する。
- ⑥ 鹿島台地区：地元からの来場者が増える「互市」アップグレードプランを考案する。

### (3) ミッション設定の経緯

今年度は、昨年度と同じミッション・詳細テーマに取り組んだ。

新しいミッションを設定しなかった理由は、来年度から起業家教育を実践する科目が「地域ビジネスプランニング」（学校設定科目）に変更され、単位数は2単位（週2時間）と1つ減るものの、実践期間は4か月間から1年間となり、授業時数も増えることから、内容の大幅な変更が必要なため、今年度はあまり内容を変更せず実践することとした。

## 6 3年間の実践を振り返って

### (1) 新しい教材の使用について

平成 24 年度の実践から、それまで使用していた自作教材の精度を上げるために、内容を大幅に変更した教材「鹿島台商業高校アントレプレナーシッププログラム」を作成し活用した。

主な変更点は、生徒がグループ活動によって地域の特産品を活用した新しい商品を考案する際に、企業において意思決定の場や企画会議などで活用されている「フレームワーク」を取り入れたことである。

フレームワークをグループ活動に活用するメリットは、物事を幅広く考えることができることや、思考の過程を説明しやすくなること、グループ内でのコミュニケーションが活発になるなどが挙げられる。

実際に活用したフレームワークは次のとおりである。

アイスブレイク	チームワークを高めるゲーム
ロジックツリー	思考過程を樹形図で表現し、幅広く深く考える思考法
ブレインストーミング	多くのアイデアを生み出す集団発想法
ワールドカフェ	メンバーの入れ替えを複数回行う話し合いの方法
KJ法	多くの情報を整理・収束・結合させる方法
衆目評価法	投票形式による意思決定法
6W3H	アイデアを具体的にする項目

これらのフレームワークを活用したことによって、活動に多様な動きが生まれ、グループ活動は活発に行われたと思われる。また、ホワイトボードシートや付箋紙、シールなどの教具を使うことによって、多くの意見や思考過程が見やすくなることから、話し合いがスムーズに進んでいた。特に印象的だった場面は、ブレインストーミングとワールドカフェを併用し、アイデアを考案する話し合いを繰り返し行った際に、クラス全体ですべてのチームのアイデアを考案しようという雰囲気を感じられた。

## (2) 生徒の実態について

先にも述べたように、フレームワークを活用することによって、グループ活動が活性化されるが、活動に臨む生徒の様子は年々変化してきている。

具体的には、グループ活動のように集団の中の一員として活動することを苦手としている生徒が見られる。話し合いなどの場面で、自分の意見が言えなかったり、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら作業を進めたりすることができないのである。そのため、静かにして時間が過ぎることを待っているか、授業とは関係のない会話や行動をして、グループに迷惑をかけてしまっている。こうした生徒に対しては、社会に出てからの仕事は、ほとんどが集団行動なのだから、責任を持って活動に臨むように話しているが、それを理解できても、積極的に活動に望めない生徒がいる現状にある。

また、生徒の探究心や創造力も年々希薄になってきている。そのため、地域社会や新しい商品を考案することに関心が持てず、実際に考案するアイデアの質も内容的には安易なものになってしまう傾向にある。指導者側が何度もアドバイスをして、考えを深めさせようとするが、なかなか有効的な意見が出ず、難しいと感じてしまうと簡単にあきらめてしまう生徒も見られる。

これらの問題については、ファシリテーションやコーチングを指導に取り入れるなどして改善していかなければならないと感じている。

さらに、この実践が2学期からということもあって、生徒の進路が徐々に決まりだすと、あとは卒業するだけといった感じで、授業に対するモチベーションも下がってしまっていた。

この点については、来年度から1年間にわたって活動する指導計画に変更になるとはいえ、注意して指導していきたいと思っている。

しかし、活動の最後となる学習成果発表会では、おそらく初めてだと思われる大人数の前でのプレゼンテーションを経験すると、どの生徒も達成感を感じている様子は毎年変わらず見られている。今後とも、生徒にとって大舞台となるような機会をゴールとして活動に取り組みさせる予定である。

## (3) 地域との連携について

この3年間で地域との連携を充実させることはできなかった。キャリア教育推進協議会に参加していただいている方々に、ミッションを生徒に提示する際に使用する映像教材に出演はしていただいたが、それ以外に生徒と関わっていただく機会を設けることができなかった。

しかし、教材が新しくなる前から行っていた、宮城大学事業構想学部宮原ゼミの学生に、チューター（講師）として来校していただき、生徒とともにディスカッションする授業は、毎年欠かさず実施することができた。生徒は、年が近いとは言え、初めて会う大学生に向けて、緊張しながらチームで考案したアイデアのプレゼンテーションを行うが、その後に行うディスカッションでは、大学生から気さくに声をかけていただき、リラックスしながらも真剣な表情で、アイデアに対するアドバイスを聞き入る様子が見られた。次年度以降は、この内容をベースに、地域の方々に協力をお願いできればと考えている。



## 7 次年度に向けて 科目「地域ビジネスプランニング」（2単位）

### (1) 指導計画（案）

月	学 習 内 容	備 考
4	① オリエンテーション ・学習内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力企業との打ち合わせ</li> <li>・ミッション（課題）の設定</li> <li>・<u>ミッション映像の撮影</u></li> </ul>
5	② プレゼンテーション学習 ・PowerPoint の使い方 ・効果的なスライド（発表資料）作成	
6	・シナリオ（発表原稿）作成 ・伝わる話し方の練習 ・プレゼンテーション演習	
7	③ 起業家教育オリエンテーション ④ ミッション（課題）発表 ⑤ チーム編成・アイスブレイク ⑥ 担当テーマ・担当企業の決定 ⑦ <u>「企業訪問」</u> （※夏季休業中）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「企業訪問」日程調整</li> <li>・生徒が担当企業を訪問させていただき、見学や体験を行う</li> </ul>
8	⑧ ミッションの背景を探る ・テーマに隠された課題の原因を推測する	
9	⑨ <u>「企業ミーティング」</u> ⑩ アイディアのコンセプトを考える ⑪ 企画会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力企業に来校していただき、生徒とディスカッションする</li> </ul>
10	⑫ 「中間報告会①」 ⑬ アイディアを改善する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生に来校していただき、生徒とディスカッションする</li> </ul>
11	⑭ <u>「中間報告会②」</u> ⑮ アイディアを完成させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力企業に来校していただき、生徒とディスカッションする</li> </ul>
12	⑯ プレゼンテーションプランの作成 ⑰ プレゼンテーション資料の作成	
1	⑱ プレゼンテーション・リハーサル ⑲ <u>「学習成果発表会」</u> ⑳ 活動の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会に参加していただき、生徒のプレゼンに対して講評をいただく</li> </ul>

### (2) ミッション（課題）について

（案1）地域が抱えている課題を1つのテーマとし、協力企業や地域の資源を活用して、課題の解決につながる新しい商品のアイディアを考案する。

（案2）協力企業（6社予定）それぞれでミッションを設定し、協力企業や地域の資源を活用して、新しい商品のアイディアを考案する。